

2 あんこくじのえんくうぶつ
安国寺の円空仏 市指定
 主尊が楊柳観音菩薩坐像(像高70.5cm)、脇仏が善財童子立像(像高52.2cm)と護法童子立像(像高51.1cm)の3体である。楊柳観音菩薩坐像は建築古材とみられる檜材、脇仏2体は桐の丸木を二つ割りにした同一材を用いている。



3 しもまくりのししまい
下間久里の獅子舞 県指定
 下間久里の香取神社で毎年7月の第3日曜日に行われる獅子舞である。太夫獅子、中獅子、女獅子3頭1組で舞う。



5 「かんのどうのえんにちふけい」えま
「観音堂の縁日風景」絵馬 市指定
 明治から大正にかけての観音堂縁日の賑わいを描いた彩色の絵馬。縦86.5cm、横151.5cm。



7 もくぞうあみだにらいざぞう
木造阿弥陀如来坐像 市指定
 清浄院に安置された2軀の木造阿弥陀如来坐像。1軀は藤原時代末期から鎌倉時代初期の作、像高62cm、寄木造。もう1軀は平安時代の作、像高60cm、一木造である。



8 きたかわさきのむしおい
北川崎の虫追い 県指定
 毎年7月24日夕暮れの川崎神社から、鉦や太鼓を先頭にして松明に火をともした行列が稲の豊作を願い「稲の虫ホイホイ」と叫びながら農道を行進する。寛政3年(1791年)頃から行われている。



10 もくぞうでんしやうかんのほんざつざぞう
木造伝正観音菩薩坐像 県指定
 鎌倉時代後期の作。像高84cm、檜材の寄木造りである。当時関東地方に流行していた宋風美術の影響を窺わせる顔のつくりと服装をもつ。



12 にじゅういちぶつたいしとうば
廿一仏板石塔婆 県指定
 天正3年(1575年)8月銘。主尊は虚空蔵で、釈迦・弥陀・薬師・普賢・十一面観音・千手観音・地藏・毘沙門・大威徳・摩利支天・不動・聖観音・大日如来・愛染明王・如意輪観音・文殊菩薩・吉祥天・弁才天・金剛界大日・竜樹の山王二十一社の本地仏をあらわした種子が刻まれる。



14 さいとうとよきくさく「ふたけい」
斎藤豊作遺作「風景」 市指定
 斎藤豊作は西方村出身の洋画家であり、明治39年(1906年)にパリに渡り新印象主義などを学び帰国。当時の文展、二科会にこの新思潮を伝えた。フランスの風景を描いた「風景」は、大正4年に母校大相模小学校に寄贈され、現在は越谷市立図書館に展示されている。



15 じょうじろくねんしちじたいもくたいび
貞治6年七字題目板碑 市指定
 貞治6年(1367年)銘のもので、「南無妙法蓮華経」と刻まれる。元荒川の川底から引き揚げられたといわれ、高さ66cm、幅20cmである。



越谷文化財散策マップ



見学・拝観の際はマナーをお守り下さい

掲載された文化財は、個人・団体・社寺・地域の人々の努力によって守り伝えられています。見学の際には失礼のないよう、充分ご配慮をお願いします。

- 所有者によって、見学・拝観・立ち入りの可否は異なります。
- 個人所有の文化財など公開されていないものもあります。
- 文化財を傷つけたり汚したりしないようご注意ください。
- 写真撮影や図面作成などは無断で行わず、所有者の許可を得てから行いましょう。

16 いちじょういんのたてく
一乗院の建具 市指定
 慶長15年(1610年)徳川家康が造営した神奈川御殿の解体資材である。一乗院が幕末期に全焼した際、金剛院(現さいたま市岩槻区大字末田)から、再建資材として寄進された。



17 さんのみやのすけめいのちからいし
三ノ宮卯之助銘の石 市指定
 三ノ宮卯之助は三野宮村出身であり、江戸時代後期、力石や米俵などの重量物を持ち上げる興行を行いながら全国各地を回り、日本一の力持ちといわれた。越谷市内には、三野宮香取神社、三野宮向佐家、越ヶ谷久伊豆神社に「三ノ宮卯之助」の銘が刻まれた石が確認されている。



18 もくぞうじぞうばさつりゅうぞう
木造地藏菩薩立像 国指定
 関東でも屈指の古さを誇る平安時代初期・9世紀に製作された古像で、カヤ材の一木造りである。慶長5年(1600年)に彩色補修された。貞観2年(860年)慈覚大師円仁が一木から3体の仏像を作り出したうちの一体と伝わる。



18 のしまじょうさんしのおおわにくち
野島浄山寺の大鯢口 市指定
 天保12年(1841年)に奉納された鋼製の鯢口で、直径6尺(176cm)、厚さ2尺(60cm)、重量200貫(750kg)と全国でも稀にみる大きさである。



こしがやのしらこぼと
越ヶ谷のシラコバト 国指定
 灰褐色の体に首の黒い線が特徴。昭和31年に国の天然記念物に指定され、のちに県の鳥、市の鳥にも指定された。キャンベルタウン野鳥の森でも飼育されている。



19 じりょうきんしんしんいんしょう
寺領寄進朱印状 市指定
 迎攝院には、天正19年(1591年)11月、徳川家康から寄進寺領高5石の朱印状が交付され、以来将軍の代替りに交付された全12通の朱印状が保存されている。



20 もくぞうあいにしちざえもんふざぞう
木造会田七左衛門夫婦坐像 市指定
 江戸時代初期の作。会田七左衛門政重は元和から寛永(1615~44年)にかけ、出羽地区のうち綾瀬川流域の沼沢地を新田に開発した。政重像は像高60.5cm、妻は像高54.0cmで共に寄木造りである。



21 さいふくいんのえんくうぶつ
西福院の円空仏 市指定
 主尊が不動明王(像高47.7cm)、脇仏が制吒迦童子(像高23.2cm)と衿羅羅童子(像高24.2cm)の3体である。檜の丸材を二つ割りにした割り放ち面に彫刻。脇仏は不動明王の余材を利用したとみられる。



25 きゅうみんきゅうさいのひ
窮民救済の碑 市指定
 瓦曾根村の名主・中村彦左衛門(重梁)が天明年間、その次男稲垣宗輔が天保7年(1836年)に、凶作の際、凶作手当の預金を窮民に与え飢饉より救ったことを記した石碑。天保9年(1838年)建立。



26 がもうのいちりづか
浦生の一里塚 県指定
 県内の日光道に沿いに残る唯一の一里塚である。一里塚とは江戸時代街道沿いに一里(約4km)ごとに築かれた目印である。道程の目標や人馬賃金の目安として用いられた。



29 だいしょうじのさんもん
大聖寺の山門 市指定
 正徳5年(1715年)に建造され、文化元年(1804年)に再建された。明治28年の火災で、唯一焼け残った建造物である。掲げられている「真大山」の扁額は老中松平定信の書である。



29 とくがわいやすのやく
徳川家康の夜具 市指定
 徳川家康は領国の視察や家臣団の統制を兼ね、鷹狩りをしながら各地を巡遊していた。このとき大聖寺にも宿泊したといわれ、その際の寝衣とされている。



33 みたかたいせき
見田方遺跡 市指定
 古墳時代後期(6~7世紀)の遺跡である。竪穴住居2棟をはじめ、土師器・須恵器・紡錘車・土錘などが発掘された。出土した遺物は旧東方村中村家住宅に展示されている。



37 かとりしんじやのちゆうこく
香取神社の彫刻 市指定
 彫刻が施されている奥殿は慶応2年(1866年)の再建で、彫物師は浅草山谷町長谷川竹次郎である。北面には紺屋の労働作業を表現した図柄が彫刻されており、江戸時代に染物業も盛んであった越ヶ谷・大沢の状況が分かる。



●番号は文化財一覧の番号に対応しています。